

滋賀県知事 三日月大造 様

事故原因を徹底究明し、危険な実弾訓練は中止を

日本共産党滋賀県議団 節木三千代
中山 和行

饗庭野演習場で2月3日に実施された155mm榴弾砲射撃訓練中に着弾が不明となっていた事件について、陸上自衛隊中部方面総監部が7月26日、演習場境界付近で当該不明弾の破片が発見され、事故原因は隊員の「人為的ミス」とする内容の「調査結果及び再発防止策」を発表。30日には同演習場での「全火器の射撃の再開」を今城克啓高島市長に依頼しました。

しかし、今回の発表では、不明弾の着弾地を地図上の「予想位置」しか示せない、ずさんな調査結果です。事故の原因をこれまで4回の場合外着弾事故と同様の「人為的ミス」と断定。このため住民からは「人命に関わるのに、事故調査も再発防止策はずさんだ」「また同様の事故を繰り返すのでは」と怒りや不安の声が出ています。

饗庭野演習場では2015年の重機関銃場合外着弾事故以来、これまで4回の場合外着弾事故が発生。銃弾による人家の屋根の貫通や乗用車の破損など、人命を奪いかねない重大事故が続き、今回は5回目の事故です。2021年の日米共同訓練の期間中には、120mm迫撃砲が演習場外に着弾するという大事故が発生したにもかかわらず、共同訓練が継続されました。今回もこれまでと同様に、ずさんな調査と対策での実弾訓練再開は言語道断です。人命よりも軍事訓練を優先する姿勢であり、断じて容認できません。

饗庭野演習場は、射程距離の長い重機関銃、迫撃砲、155mm榴弾砲などの射撃に適さない狭く、人家に接近した演習場です。にもかかわらず事故後も実弾訓練が再開された結果、「人的ミス」による事故が繰り返されています。こうした事態は全国の演習場(70)でも饗庭野だけです。事故の主要な原因は「人為的ミス」ではなく、狭い演習場そのものにあることは明白です。重機関銃、迫撃砲、155mm榴弾砲などの実弾射撃訓練を中止すること以外には、事故の再発を防止できません。今求められているのは、事故の科学的な調査に基づく、事故原因の徹底究明です。饗庭野演習場での実弾射撃訓練を中止することをはじめ、下記の内容について、国に要請するよう強く求めます。

記

- ① 科学的な調査に基づいて、事故原因を徹底的に究明し、責任を明確にすること。
- ② 饗庭野演習場での実弾射撃訓練を再開させず、中止すること。
- ③ 強い不安を与えた饗庭野演習場周辺の全住民を対象にした説明会を開き、謝罪するとともに、住民の声に耳を傾けること。

以上